

特集！JPCOAR活動 2年目を振り返る

2018年度は、JPCOAR設立3年目を迎え、これまでの取り組みに加え新たな取組に挑戦した年。JPCOARにおいて、作業部会やタスクフォースのメンバーが行ってきた活動を、紙面にて振り返ります。

2018年

Domestic

4月

[5月] [JPCOARスキーマガイドライン](#)をWebで公開

5月

[6月] 第65回国立大学図書館協会総会で [ブース出展](#) / 専門図書館協議会全国研究集会第4分科会でTF活動紹介 ([発表資料](#)) / Japan Open Science Summit 2018 (JOSS2018) で発表やポスター出展等 ([発表資料1](#)・[発表資料2](#)・[出展ポスター](#)) / 第14回学術情報ソリューションセミナーでブース出展と活動紹介等 ([発表資料](#))

6月

[7月～3月] Newsletter CoCOAR の発行 ([4号](#)・[5号](#)・[6号](#)・7号)

7月

[7月～11月] 機関リポジトリ新任担当者研修 (計4回) を開催

8月

[8月] [JPCOARスキーマ ver1.01](#) 策定 / [統合イノベーション戦略](#) についての見解 を公開 / 教材「[研究データ管理サービスの設計と実践](#)」を公開

9月

[8・9月] JPCOARスキーマ説明会 (全2回) を開催 ([説明資料](#))

10月

[10月] [オープンアクセスウィーク2018](#) 特設ページを開設 / DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会を開催 / 第20回図書館総合展でフォーラムを主催 ([発表資料](#))

11月

12月

[11月] [中期ビジョン&中期計画2019-2021年度\(案\)](#) を公開 / 地域共同リポジトリ JAIRO Cloud移行ワークショップを開催

1月

2月

3月

2019年

[3月] 『[JPCOARオープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021年度](#)』を策定

[5月] [COAR Annual Meeting 2018](#) (ドイツ・ハンブルク) で活動紹介とポスター発表 ([参加報告](#))

[9月] [ETD 2018 Taiwan](#) (台湾・台北) で [ポスター発表](#) を行い「Best Poster Award」受賞

[2月] [14th International Digital Curation Conference](#) (オーストラリア・メルボルン) に参加

[3月] [Asia OA Meeting2019](#) (バングラデシュ・ダッカ) に参加

International

* 発表資料などがWeb公開されている場合は、そのWebサイトへのリンクが付けられています。印刷物でご覧の方にはあらかじめご了承ください。

特集！ 2018年度 活動・成果報告（作業部会）

JAIRO Cloud 運用作業部会

JAIRO Cloud コミュニティサイトを通じた利用機関の支援や、機関リポジトリ新任担当者研修への講師派遣を行いました。また、JAIRO Cloud へのリポジトリ

システム移行の検討の支援のため、相談会や地域共同リポジトリ向けのワークショップを実施しました。

2018 年 10 月	「Dspace から JAIRO Cloud へのデータ移行相談会」開催 Dspace から JAIRO Cloud へのデータ移行に関し、実践的なノウハウの共有及び技術的な課題について具体的な対策を図るための相談会を開催しました。
2018 年 11 月	「地域共同リポジトリ JAIRO Cloud 移行ワークショップ(新潟)」開催 新潟県地域共同リポジトリから JAIRO Cloud へ移行する機関を対象に、移行作業の事前体験と機関リポジトリをとりまく最新動向修得のためのワークショップを開催しました。
2018 年 11 月	「JAIRO Cloud 初級ユーザー向け手引書」公開 JAIRO Cloud 初級ユーザーへのサポートの一環として、手引書を公開しました。 http://id.nii.ac.jp/1038/00000202/

研修作業部会

リポジトリ担当者の人材育成を目的として、新任担当者研修を実施しました。

オープンアクセスの推進と機関リポジトリの構築・運用に必要な基礎的な知識を修得するため、機関リポジトリ新任担当者向けの研修会を 2018 年度は 4 回開催しました。北海道から沖縄まで、全国の多種多様な機関から 180 名の方からお申込を頂き、123 名の方が受講されました。収容人数の都合上、申込者のうち 68 パーセントの方にしかご受講いただけませんでしたが、機関単位では、全ての申込機関に研修の機会を提供することができました。また、オンライン会議システムを利用して講義をテスト配信し、12 名の方が受講され

ました。今年度より実施した研修前・研修後の課題にも積極的に取り組んで頂きました。グループごとに作成された成果物は、研修の教材・報告書と共に https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=64 に公開予定です。また、コミュニティ活動の支援として、研修後も有志による SNS を使った意見交換の場を設け、63 名の方が参加されています。著作権やシステムの操作性等様々な事柄について活発に議論しています。

研修事業は受講者のみならず研修を企画実施している作業部会員にとっても多くのことを学び、経験できる機会となりました。皆様も JPCOAR の様々な活動に参加されませんか？

広報普及作業部会

JPCOAR における情報共有や外部への広報活動、そして JAIRO Cloud の普及を目指した諸活動を実施しました。具体的には、JPCOAR ウェブサイトを随時更新するとともに、情報誌「CoCOAR」を計4号刊行し同ウェブサイト上で公開、さらに Facebook においても具体的な活動内容の報告やリポジトリ関連の情報提供を行いました。10 月開催の第 20 回図書館総合展では「オープンサイエンス、どこからどう手をつけるか？ー JPCOAR の中長期戦略ー」と題してフォーラムを開催し 200 名近い方にご参加いただきました。また、

オープンアクセスウィークにあわせて特設サイトを開設、各機関で活用できるポスターや広報ツール等のテンプレートを公開したほか、実際の活動内容を募集して各図書館で行われた活動を特設サイトで紹介しています。以下の関連サイトをぜひご覧ください。



広報用バナースタンドと部会員

- Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/jpcoar/>
- JPCOAR Newsletter「CoCOAR」 : https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=62
- オープンアクセスウィーク特設サイト : https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=102

特集！ 2018年度 活動・成果報告（タスクフォース）

研究データタスクフォース

2018年度は、主に活動計画に掲げた「研究データ管理（RDM）新教材の開発と普及」「RDM ポータルサイトの構築」に取り組みました。

RDM 新教材「研究データ管理サービスの設計と実践」は、第1弾の教材と比較してより実践的な内容で、研究支援職員（図書館員、研究支援職員（URA）、技術スタッフ等）のための教材となっています。研究プロセスに沿って、具体的なサービスの設計と実践について学ぶことができる教材です。2018年の8月から10月にかけて新教材の試用プロジェクトが実施され、一般企業を含む18の機関が参加しました。RDMポータルサイトの構築に関しては、海外の事例を調査

し、調査内容を RDM 新教材に反映させました。RDM 新教材のスライドは JP COAR サイト（<http://id.nii.ac.jp/1458/00000107>）で公開されています。



「RDM 新教材」より

また、異種コミュニティ連携にも積極的に取り組んでおり、2018年8月にはRA協議会、同年11月には大学ICT推進協議会での発表も行いました。2019年2月にはメルボルン大学で開催された14th IDCCに参加し、海外の最新状況を収集しました。この成果は今後の活動に反映させていく予定です。

研究者情報連携タスクフォース

2018年度の活動計画、「機関リポジトリへの外部メタデータ活用に関する事業」を実施しました。これは、外部のデータベース（Web of Science）から機関リポジトリにメタデータを定期的に取り込み、担当者へ電子メールでお知らせすることにより、新着情報の提供とコンテンツ登録時のメタデータ活用ができる仕組みです。

プロジェクト名「JAIRO Cloud メタデータ自動入力機能検証プロジェクト」として、次の9機関に参加していただきました。

東北大学 筑波大学 東京大学 横浜国立大学
富山大学 信州大学 静岡大学 名古屋大学
沖縄科学技術大学院大学

8月からプロジェクトを開始して実証実験を進め、2回のミーティングを開催（2018年11月28日、2019年1月28日）し、機能に関する評価や意見をいただきました。プロジェクト参加機関の評価を基に、今後は、自動登録機能の向上に向けた検討、業務ワークフローの確認と検証、そして、Web of Science を提供するクラリベイト・アナリティクスとの協議を行う予定です。

メタデータ普及タスクフォース

2017年10月のJPCOARスキーマ策定をうけて、2018年度は普及活動に注力しました。

2018年5月	JPCOAR スキーマガイドラインのWebサイトを公開し、各要素の詳細やFAQなど情報提供しています。 https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja
2018年8月～9月	東京・神戸の2会場でJPCOARスキーマ説明会を開催 http://id.nii.ac.jp/1458/00000110/
2018年10月	図書館総合展でポスター発表「JPCOARスキーマ：機関リポジトリのメタデータを世界へ届ける」 http://id.nii.ac.jp/1458/00000119/

現在はIRDBデータ提供機関のための「DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン（JPCOARスキーマ編）」の作成に取り組んでおり、近く公開予定です。COAR Annual Meeting への派遣や OpenAIRE のスキーマ語彙変更に伴う JPCOAR スキーマの改訂など、

国際連携活動も継続して実施しています。

■COAR Annual Meeting 2018参加報告

<http://id.nii.ac.jp/1458/00000093/>

中長期計画検討タスクフォース

JPCOAR も設立から2年を経て、その活動も少しずつ形が整ってきましたが、協会設立趣意のもととなる「大学の知の発信システムの構築に向けて」（「竹橋宣言」）は公表から5年が経ち、その間、特にこの

1～2年においては、内閣府などによるオープンサイエンス推進への動きも見え始めています。オープンアクセスリポジトリを進める環境も変わりつつある中で、JPCOAR の目的を実現するためには、作業部会、タ

特集！ 2018年度 活動・成果報告（タスクフォース）

スクフォースの活動を現在の状況に合わせてチューニングし直す必要があります。そのため、中長期計画検討タスクフォースを設置し、JPCOAR の今後の戦略的展開を図る、中長期目標、計画の策定作業に取りかかることになりました。

タスクフォースは、運営委員会の委員を中心に、若手作業部会員などをオブザーバーに迎え、機関リポジトリの総括や次世代リポジトリの機能、JPCOAR の役割などの検討を行い、会員機関からの意見も得て、2019 年度から 2021 年度までの 3 年度における、ビジョンと 5 つの戦略からなる「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019 ～ 2021 年度」を作成しました。

戦略の骨子となるのは、①オープンサイエンス推進

への寄与、②オープンアクセスのさらなる推進、これらを進めていくのに必要な、③コミュニティ活動の促進と強化、そして、④人材育成です。同時にこれらを進めていく⑤協会の運営基盤の強化、ブランド力の強化も行っていきます。さらに、この戦略を進めるため、同時に作業部会、タスクフォースの見直しも行い、戦略ごとに作業部会を編成することとしました。

この戦略で、JPCOAR の目指すところが変わるものではありませんが、より会員機関がひとつとなり、共通の認識を持ってリポジトリを通じた知の発信システムの構築に向けての活動を進めていけるようになるのではないかと考えます。

改めて会員機関皆様のご協力を賜りながら、JPCOAR の活動をさらに加速していきます。

SCPJ 検討タスクフォース

SCPJ (Society Copyright Policies in Japan) は、機関リポジトリへの論文掲載に対して日本国内の学協会がどのような許諾ポリシーを示しているか、情報を集約して提供するサービスです。国立情報学研究所からの委託事業として 2006 ～ 2012 年に筑波大、千葉大、東工大、神戸大が共同構築し、その後は筑波大がサーバの維持管理を行ってきました。保有する情報の件数は 2,618 学会の 3,182 学会誌であり、これは全世界の学協会の情報を集約する SHERPA / RoMEO に匹敵する情報量であり、日々の機関リポジトリ業務にはなくてはならない情報源となっています。しかし、ポリシー情報を組織的に更新し続けるための財政支援は事業の終了と共に失われ、またシステム改修の目途も立っておらず、サービスがいつ停止してもおかしくない状況にあります。

タスクフォースでは、今後は SCPJ の運用を筑波大から JPCOAR に移行することとし、まずは最悪の事

態を避けるための緊急避難策として SCPJ が保有するデータを抜き出して Excel 表によって共有する方針を提案し、運営委員会の承認を得ました。今後、2019 年度は第一段階として Excel 表に加工したデータと共に解説資料等も含めて JPCOAR のサイトにコピーして公開し、機関リポジトリ業務に大きな支障が生じないようにします。また、移行の案内を学協会に通知すると共に、長らく更新されていないポリシー情報を最新の内容に更新できるよう、情報提供を求める予定です。

2020 年度以降は第二段階として、ポリシー情報の持続的な更新に向けて、従来は学協会との連絡確認などに多大な労力を割いていた手法を見直す予定です。また会員機関の皆様にもご協力いただき安定的な運用の目途が立った際には、それを実績として資金等を確保し、より使い勝手の良い後継システムについて模索することを想定しています。

連載：オープンアクセス論文紀行

機関リポジトリで公開されている論文から毎回テーマを決めて、専門家以外の方にとっても親しみやすい日本語文献を紹介しています。3回目となる今回のテーマは「ミステリー作家とその作品」です。

タレコミ募集！ 次回のテーマは「サイバー・カルチャーとその周辺」

本連載は JPCOAR 参加機関のみなさんの推薦で記事を作っていきます。次回テーマは「サイバー・カルチャーとその周辺」。スマホ関連やFacebookなどのSNS関連、e スポーツやテレビゲーム、インスタ映えなど、自機関リポジトリにある文献の自薦もちろん大歓迎です。奮ってご応募ください！

■投稿フォーム（2019年6月30日まで）<https://goo.gl/forms/K6oPIRrKjwjgXZG12>





オープンアクセス 論文紀行

J P C O A R
オープンアクセスリポジトリ推進協会

Vol.3 ミステリー作家とその作品

国内の多くの大学が、所属研究者の執筆文献を大学のウェブサイト（「機関リポジトリ」）で公開しています。の中には、専門家の方以外にも親しみやすい日本語文献もいっぱい！ CiNii Articles であなたも楽しそうな文献を見つけてみませんか？

哲学的ジャンルとしての推理小説：デュレン
マットの推理小説について（北海道大学）

「指紋」の隔たり：古畑種基「指紋」（1926）
と林熊生「指紋」（1943）（北海道医療大学）

形式のショーケース：マルチ視点ミステリー・湊かなえ『告白』（信州大学）

『クレイドル・ザ・スカイ』の語り手は
誰か：森博嗣「スカイ・クロラ」シリーズ
の時系列分析から（信州大学）

森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』にお
ける先行文学作品受容（富山大学）

東野圭吾の描く女性たち（大阪府立大学）

「探偵小説」の方法：坂口安吾
「能面の秘密」論（大阪大学）

アイデンティティの揺らぎを抱え合う少
年達：『龍は眠る』（宮部みゆき）、『鉄コ
ン筋クリート』（松本大洋）、『少年ア
リス』（長野まゆみ）に見られる影の統合と
融合するアイデンティティ（甲南大学）

図書館はどうみられてきたか：日本のミ
ステリと図書館員--東野圭吾・法月綸太
郎のケースについて（甲南女子大学）

江戸川乱歩の退場：
「断崖」における
<見せ消し>の修辞
学（九州大学）

「母殺し」の隠れた犯人である
「不在者」は、事件の「発端」か
ら「制裁」までをも決定していた
-小説『告白』における母子迷走
と河合隼雄の射程に関する覚書-
（福岡教育大学）

東野圭吾論（九州産業大学）

舞城王太郎「好き好き大好き
超愛してる。」論：女性の死
とセカイの効果（広島大学）

京極夏彦研究--「妖怪」
小説の意味（ノートル
ダム清心女子大学）

江戸川乱歩「心理試験」の心
理学（尾道市立大学）

横溝正史研究：『鬼火』を中心
として（宮城学院女子大学）

江戸川乱歩にみる「南洋」-映像との
比較を中心にして-（東北大学）

「探偵小説として」読むこと：『アブサ
ロム、アブサロム！』における探偵小説
性の利用と脱構築（東京大学）

切断と断片化 一桐野夏生『OUT』
論一（跡見学園女子大学）

吊り鐘の力学：横溝正史「獄門
島」の一場面（工学院大学）

「同性愛者の隣人」との関係
性 一桐野夏生『天使に見捨て
られた夜』一（中央大学）

アニメ「聖地巡礼」と「観光のま
なざし」-アニメ『氷菓』と高山の
事例を中心に-（早稲田大学）

動物とロックンロール：古川
日出男の想像力（自然観探求
ユニット）（東洋大学）

感覚表現とサスペンス：宮部みゆき「殺
し屋」冒頭を対象に（中央学院大学）

伊坂幸太郎『ゴールデンスラン
バー』論（フェリス学院大学）

探偵小説についての試論：物語
とデータベース（静岡大学）

「芭蕉」使用の分水嶺：横溝正史
『獄門島』論（名古屋大学）

江戸川乱歩「人間椅子」論 --エログロとい
う評価と心理的盲点--（京都大学）



ご紹介している文献は、CiNii Articles（<https://ci.nii.ac.jp/>）から検索し、
各大学のウェブサイト（機関リポジトリ）で全文を閲覧可能です。

CiNii
Articles
日本の論文をさがす

論文検索	最新論文	全文検索
フリーワード		検索
すべて	本文あり	詳細検索

寄稿：JAIRO 10 歳！開発おもひで

機関リポジトリの羅針盤：JAIRO 終了と新 IRDB 誕生に寄せて

「JAIRO が 2019 年 3 月末で終了」というニュースを見て、開発当時、機関リポジトリ（IR）担当だった一人として、とても感慨深く感じています。

「JAIRO：学術機関リポジトリポータル」は、日本の IR のメタデータを収集し、まとめて検索できるサービスとして 2008 年 10 月に試験公開され、約 10 年を経て、その役割を終えることになりました。

実は、開発当時から「IR に特化した検索サービスにどれだけ意味があるのか」というシビアな議論がありました。「IR はあくまでも、本文アリのコンテンツの容れ物で、検索は一般ユーザが普通に使うサービスに任せれば良いのではないか」と。しかし、「IR 推進のため、日本の IR の全てがわかる、顔になるサイトが必要だ」という経営判断の下、開発が決定されたのです。対になる機能として IRDB コンテンツ分析システムも開発し、各機関の IR の状況をグラフィカルに表示できるようになりました。他システムからデータをハーベストされたり、Google からクロールされたりする他、コンテンツタイプが Article のものは CiNii にメタデータを渡すといった、発見可能性を高める工夫も行われました。

IR 事業の前は「メタデータ・データベース共同構築事業」がありました。データは「大学 Web サイト資源検索 JuNii」で検索でき、IR 事業の進展に伴い「JuNii +」へ引き継がれます。その後、根本的な機能

の見直しと世界標準 + α の機能を持つメタデータスキーマ junii 2 をベースに、「JAIRO」と「IRDB コンテンツ分析システム」が誕生しました。

「JAIRO」のネーミングには思い入れがあります。前事業からの連続性を担保しつつ、何か新しい、ワクワクするような要素を求めています。「JAIRO」が採用された決定打は、音が Gyrocompass に似ていたことです。「羅針盤のように、日本の IR の現在と未来を指し示したい」というコンセプトが込められたのです。一方、IR のコンテンツを集積・発信するクラウドサービス「JAIRO Cloud」は着実にユーザを増やし、日本の IR に無くてはならない存在となりました。JAIRO ブランドが引き継がれていくのは、とても嬉しいことです。

容れ物は変わっても、IR 担当者が育てたメタデータやコンテンツは生かされ続けます。2019 年 4 月、新メタデータスキーマ JPCOAR に対応した、新 IRDB の誕生と成長に大いなる期待を寄せて、思い出話を終えたいと思います。

追伸：NDL の Web Archiving Project「WARP」に、歴代システムのトップページがアーカイブされています。こういうサービス、とても大事ですね。

森 いづみ（信州大学附属図書館・管理課長）

報告：2018年度オープンアクセスリポジトリ推進協会総会

開催日：2019年3月13日（水）／会場：一橋大学一橋講堂中会議場

次年度会長として立教大学、監事として首都大学東京、お茶の水女子大学が選出されたのち、JAIRO Cloud の容量拡大対応に伴う会費規程改正のほか、メタデータ普及 TF から JPCOAR スキーマの策定について、研究データ TF から RDM 教材やポータルサイトの構築についての報告を行いました。

休憩をはさみ、「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019 - 2021 年度」とこれに基づく活動（作業部会の再編）および 2019 年度予算について説明し、承認。会場からは「デジタルアーカイブへの対応をも視野に」といった意見もいただきました。

最後に、次期 JAIRO Cloud 移行について報告を行い、今後説明会の開催などでさらに普及を進めていく旨説明いたしました。また、総会終了後に開催した臨時運営委員会では、体制の変更に伴う規程の改正等を協議し、次年度への準備を整えました。

JPCOAR はこれから、新しい体制で新しい戦略の実現に臨んでいきます。2019 年度もどうぞよろしくお願いいたします。

尾崎 文代（JPCOAR運営委員・鳥取大学）

編集後記

2018 年度の締めくくりとなる CoCOAR 第 7 号はいかがでしたでしょうか。「オープンアクセス論文紀行」で全国の心惹かれる文献との出会いはあったでしょうか。次年度初めには CoCOAR 編集作業に携わる作業部会メンバーの募集があります。どしどしご応募ください！一緒に誌面作りをしませんか？！

Webサイト <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/jpcoar/>



JPCOAR Newsletter: CoCOAR 第7号

2019年3月31日 発行

オープンアクセスリポジトリ推進協会

